

## Hib 感染症→ヒブワクチン（アクトヒブ®）

b 型インフルエンザ菌（*haemophilus influenzae type b*）が原因です。インフルエンザ菌は主に 1 歳未満の細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎といった病気の原因として重要で b 型（Hib）が最も重い症状を起こしますが、Hib はワクチンが非常に効果的です。インフルエンザ菌は細菌なので冬に流行するインフルエンザ（ウイルス）とは全くの別物です。

Hib は肺炎、敗血症、髄膜炎、喉頭蓋炎、中耳炎、蜂窩織炎、化膿性関節炎など様々な病気の原因となります。細菌性髄膜炎は全体の半分を 5 歳未満が占め、その 60%は Hib が原因で特に 1 歳未満の子に多くみられていました。近年 Hib ワクチンが定期接種になった影響で、Hib による重症感染症は接種が完了していないか未接種の子に稀にみられる程度に激減しました。しかし実際に髄膜炎になってしまうと耐性菌も多いため治療が難航してしまい 2~5%が死亡、30%で後遺症（発達、知能、運動障害や難聴など）が残るといわれるほど怖い病気です。

Hib ワクチンは生後 2 か月からできます。できるだけ早めに予防接種をして赤ちゃんを守ってあげてください。耐性菌でも予防接種で免疫が付いていれば防ぐことができます。インフルエンザ菌は中耳炎でも重要な原因菌ですが、b 型インフルエンザ菌は中耳炎の原因としては少ないのでワクチンの効果はそれほど期待できません。